



宮司プレス 百十八号

彦島八幡宮 宮司 ニュース
発行者 彦島八幡宮
宮司 柴田 宜夫
発行 平成二十八年 十月二十一日

◇宮司の柴田です。十月は、神無月(かなづき)といわれます。無(な)というのが、現代語の連用形では、「の」にあたりますので、神の月、神祭る月といえるのではないのでしょうか。お待たせしました、宮司プレス第百十八号の発行です。今月は、四日、五日の連島八幡宮の例大祭を皮切りに、十五日、十六日には、田の首八幡宮の例大祭を御奉仕申し上げます。そして、いよいよ、明日と明後日と、当宮の例大祭です。

明治天皇様は、御製(ぎよせい)に、「わが国は 神のすえなり 神祭る 昔のてぶり わするなよゆめ」と、お詠みになられました。襟を正して、遺漏なく、おつとめせねばと、思いを新たにしています。◇中国の最古の王朝であった「夏(か)」という国では、一年の「年」のことを「載(さい)」と称していました。次の王朝である「商(しょう)」という国は、「祀(し)」と、称しました。実は、商という国は、占いや神事を重んじる国家でありました。戦場に赴(おも)

「わが国は 神のすえなり 神祭る 昔のてぶり わするなよゆめ」と、お詠みになられました。

「商(しょう)」という国は、「祀(し)」と、称しました。実は、商という国は、占いや神事を重んじる国家でありました。戦場に赴(おも)

「商(しょう)」という国は、「祀(し)」と、称しました。実は、商という国は、占いや神事を重んじる国家でありました。戦場に赴(おも)

む)く軍隊の先頭にも、「巫女(ふじよ)」という不思議な霊力を持った女性を配し、災厄(さいやく)を清めながら行進したそうです。日々、月々、その歳月の歩みが、まさに、祭事である「祀、祭祀」と共にあったのです。日本で使われている、「年」、これは、「稲」のことなのです。春のお祭りである、「祈年祭(きねんさい)」は、五穀の豊穰を祈るお祭りです。そして、秋の収穫を迎えるための様々のお祭りを厳かに執行し、明日明後日の例大祭を迎えるわけです。神様に祈り、秋の稔りをあらかじめお祝いをし、神様とのお約束を反故にしないよう努力を続けるのです。その過程には、いかなる試練があるうとも、きっと、神様がお守りくださることを信じて、常に、前向きに生活をする、そして、感謝の喜びの日を迎えるわけです。祈り、感謝、そして御加護を頂く、その一つのサイクルが、まさに、「一年」なのです。

◇宮司プレスの既刊号にも詳しく述べたこととがあると思いますが、神社神道で一番大切にしているのは、「祓(はら)い」です。祓いには、過去と現在を清める「外清浄(げし

ようじよう)」と、未来を清める「内清浄(ないししようじよう)」に分けられます。鳥居をくぐり、お手を水をする、神職から祓いを受ける、これが、外清浄です。身体が、浄化されるのです。そして、神前へと向かい、心の浄化装置のスイッチをオンにするのです。

自分自身の精神をまっさらに浄化するのですが、それは、自分自身の精神を高めることです。まず、自然の営みに感謝する素朴な気持ち、そして、すべての事象、出来事、物事が神様のお働きであることを受け入れる寛容さ、さらに、他人を敬う謙虚さ、この三つの心を取り戻すのが、心の浄化、未来を清める内清浄です。「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉があります。あれが悪い、これが悪いと人を責める気持ちを捨て、身のまわりに起こることすべてに感謝の心を持って自分を変えていく営み、まさに、外清浄内清浄、心が変わっていくのではないのでしょうか。江戸時代に「吉川神道」という神道論を唱えた、「吉川惟足(よしかわこれたる)」は、「もろもろの 穢れの雲を 祓ひなば 心の月は いつもさやけき」という和歌を残しています。心を月にたとえるならば、心の月が、いつも、清く潔(さや)けく

あるためには、いつも、穢(けが)れを祓いやる努力が必要であると説いています。この穢れとは、本来的なものではなく、人の成長過程において、後天的(こうてんてき)についてきたものですから、神様から頂いた正しい心こそ、清く潔けき心です。「心が変われば、行動が変わる、習慣が変わる、人格が変わる、出会いが変わる、運命が変わる」という言葉もあります。アメリカのニューヨーク大学の研究によりますと、過去の幸福な記憶よりも未来に起こることの方を「明るい」と思う人が多く、しかも、脳は、未来の幸福な出来事を想像した時に最も活性化するので、明日と明後日の例大祭は、神様から「載」いている今ある命に感謝をして、外清浄内清浄の「祭祀」を厳粛に行い、無事に過ごせた「一年」の喜びを分かち合いたいとおもいます。そして、前向きな気持ちで人生を楽しむという神道の三本柱の一つである、未来志向で、活性化していきたいものです。ご自愛ください。

◇八月九、月の祭典行事報告

▼月次祭

*八月一日、十五日

*九月月一日、十五日

▼西山町櫓(やぐら)竣工式 *八月十日

▼若宮神社例祭 *九月九日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 *九月十日

▼観月祭 *九月十五日

▼朝粥会 *八月二十一日、九月二十一日

▼秋季祖霊祭 *九月二十二日

▼貴布禰神社例祭 *九月二十二日～二十三日

◇八月、九月月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会例会 *八月六日

◇彦島八幡宮リーグ役員会 *八月二十五日

◇秋季例大祭企画室会議 *八月二十五日

◇神道会世話人会 *八月二十八日

◇総代会 *九月二十一日

◇敬神婦人会役員会 *九月二十八日

▼神職養成講習会講義

◇神社神道概説□講義

*八月一日、十一日～十二日、十九日～二十日

(二コマ五十分の十八コマ、十五時間の講義)

◇成績判定会議 *八月二十六日

◇閉講式 *八月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇下関支部三役会 *八月二日

◇下関支部幹事会 *八月三日

◇周南支部総会に神社庁長代理にて出向

*八月二十二日

◇下関支部総会 *八月二十四日

◇神宮大麻都市頒布対策会議

*八月二十六日

◇神社庁役員会 *八月二十七日

◇神社関係者大会 *九月九日

◇神宮大麻頒布始祭(伊勢神宮)

*九月十六日～日十七日

◇下関支部幹事会 *九月二十日

◇下関市敬神婦人会茶話会 *九月二十六日

◇神宮大麻増頒布推進会議、教学研究部会議

*九月三十日

▼教誨(きょうかい)活動

◇集合教誨(男子、女子)

*八月二十九日、九月十二日、二十六日

▼下関西ロータリークラブ

◇例会

*八月三日、九月十四日、九月二十八日

◇クラブフォーラム *八月三日

◇定例理事会 *九月十四日

◇クラブ協議会 *七月二十日

▼その他

◇四九八九(しくはっく)の会

*八月九日

◇下関中央倫理法人会モーニングセミナー

*八月二十五日

◇下関市倫理法人会モーニングセミナー

*九月十四日(卓話)

◇西山小へ出前講座

*九月二十九日